

637 岡野敬次郎先生教授在職二十五年祝賀記念資金募集広告

〔法学新報〕第31卷3(351)号 大正10年3月5日

岡野敬次郎先生教授在職廿五年祝賀記念資金募集広告

東京帝国大学教授法学博士岡野敬次郎先生本年九月を以て教授在職満二十五年に達せられ候に就いては之を機会として同先生の学界に於ける業績を記念し並に皇室及び国家の立法事業に關し育英事業に關し其他諸般の公私の事業に關して尽され候多年の功勞を表彰するが為に知友同僚門弟等相謀り広く同志諸君の賛同を得て記念資金を募集し左記の事業を企て度候

一 釀金の大部分を以て岡野博士奨学基金となし學術に貢献すべき適當の事業を計画すること但し其事業の計画は実行委員の決定に一任せられたきこと

一 釀金の一部を以て先生の肖像三面を調整し一面は東京帝国大学に、一面は中央大学に、一面は岡野家に贈呈すること

一 有志の学者若干名の學術的論文を募り祝賀論文集として之を公刊し且之を先生に贈呈すること

一 適當の期日を扨び先生を招待して祝賀会を開くこと

右に付左記御了承の上御賛同被下度願上候

一 醸金は東京帝国大学法学部内山田三良(振替貯金口座東京八参九番)宛に御送附願ひ度きこと

一 醸金の申込及び払込は大正十年九月末日を以て締切ること

一 御送金に対しては受領証差上候外学士会月報法学協会雑誌国家学会雑誌法学新報紙上に受領報告を掲載致すべきこと

大正十年三月

発起人(◎は実行委員)

吾孫子 勝 安倍 四郎 阿部 壽準 青木 菊雄
 青木鐵太郎 ◎青山 衆司 明石 照男 秋山雅之介
 淺田 恵一 跡部定次郎 天岡 直嘉 天野 弘一
 井坂 孝 井上準之助 井上辰九郎 伊藤 文吉
 飯島 喬平 池田寅二郎 石黒 忠篤 石塚 英藏
 石原 健三 石渡莊太郎 石渡 敏一 磯部 四郎
 一木喜徳郎 市村 富久 市村 光恵 糸井 靖之
 乾 政彦 岩田 宙造 鶴澤 總明 上杉 慎吉
 上野 道輔 植村 俊平 ◎牛塚虎太郎 江木 衷
 江木 翼 遠藤 源六 小川郷太郎 小川 平吉
 ◎小野塚喜平次 小原 駮吉 小山 温 尾崎 敬義
 織田 萬 大谷 正男 岡 實 岡田朝太郎
 岡松參太郎 加藤 高明 ◎加藤 正治 加納友之助
 寛 克彦 梶原 仲治 片山 義勝 勝木勘三郎

金森徳次郎 龜山 俊藏 川地喜三郎 河井 彌八
 河上 謹一 河田 烈 河津 暹 河村讓三郎
 神戸 正雄 神野勝之助 木内重四郎 木村 鋭市
 木村 通 岸 清一 久保田政周 ◎窪田静太郎
 倉富勇三郎 黒崎 定三 黒田 英雄 毛戸 勝元
 小橋 一太 小林正一郎 小町谷操三 小村 欣一
 五島 慶太 五味 均平 佐竹 三吾 佐藤得四郎
 佐藤 正之 櫻井鐵太郎 澤田 源一 澤田竹治郎
 清水 澄 志村源太郎 ◎鹽谷恒太郎 澁谷米太郎
 島 保 島田 俊雄 島村他三郎 下岡 忠治
 下條 康磨 下村 宏 守隨啓四郎 白石元治郎
 白銀 朝則 ◎末廣嚴太郎 末廣 重雄 末松偕一郎
 菅原 通敬 杉 宜陳 杉村 愛仁 杉山直治郎
 ◎鈴木喜三郎 鈴木馬左也 關 正雄 關口健一郎
 田島 錦治 田中耕太郎 田中 隆三 田部 芳
 田村 鐵輔 高野岩三郎 高橋 其三 高柳 賢三
 ◎立 作太郎 辰野 龜男 谷野 格 塚本 清治
 寺田 四郎 土岐 嘉平 徳川 慶久 富田勇太郎
 富谷銚太郎 豊島 直通 中川 健藏 中川孝太郎
 中川 正左 中島 玉吉 中田 薫 中田 錦吉
 中西 次郎 中西 清一 中松 盛雄 中村 是公
 中村 進午 永井 亨 長岡 徳治 長島 毅
 長島鷺太郎 南部 光臣 ◎仁井田益太郎 仁保 龜松
 西野 元 野村 淳治 野村 信孝 服部金太郎

◎馬場 鏝一	馬場 愿治	橋本圭三郎	秦 豐助
鳩山 一郎	鳩山 秀夫	◎花井 卓藏	花岡 敏夫
早川千吉郎	林 頼三郎	原 嘉道	春木 一郎
日野水忠作	土方 久徴	土方 寧	平田 讓衛
平沼騏一郎	廣幡 忠隆	深川 繁治	二上 兵治
藤井 實	◎穗積 重遠	星野 米	星野 辰雄
堀 啓次郎	眞船 民伊	牧野 英一	牧野菊之助
松井 茂	松浦鎮次郎	◎松岡 均平	松永 正虎
◎松波仁一郎	松村眞一郎	◎松本 烝治	三浦 義道
三瀧 信三	三宅 碩夫	美濃部俊吉	◎美濃部達吉
水野鍊太郎	水町袈袞六	南 新吾	◎南 弘
宮内國太郎	宮岡恒次郎	宮城長五郎	宮崎道三郎
村上 恭一	村上 隆吉	泉二 新熊	森 莊三郎
◎矢野 恒太	矢作 榮藏	矢部 廉	安田善三郎
藪野 義光	山内確三郎	山川 端夫	山崎覺次郎
◎山田 三良	山之内一次	山本 厚藏	湯川 寛吉
吉田節太郎	吉野 作造	吉野 信次	米田奈良吉
若槻禮次郎	若宮 貞夫	渡邊 千冬	渡邊 鐵藏
渡部 信			